

第 11 回 田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会

令和 6 年 4 月 21 日(日)に第 11 回田瀬湖一斉清掃及びごみ川柳大会が開催され、遠野支署からは 5 名参加しました。田瀬湖上流に貯まっているゴミを拾い、市民の水資源や河川環境への関心を喚起し、花巻市民や遠野市民及び周辺地域の関係者が共に汗を流すことで交流を深めるイベントです。今回は約 80 名が参加し、晴天の中活動することができました。



会長の挨拶ではマイクロプラスチックの危険性を強く訴えており、この田瀬湖を經由し流れ出るゴミが、数多くの環境問題につながることを改めて痛感しました。実際にゴミ拾いを始めると、ペットボトルは勿論、農作業で使われる苗用ポットやコンテナなどの様々なプラスチック製のゴミが見られました。昨年度参加した職員の報告資料では、特に発泡スチロールのゴミが多かったと感想を述べていました。やはり今年も多く残っており、細かくなった発泡スチロールが目立っていたと思います。燃えないゴミ袋と燃えるゴミ袋に同時に集めていくと、ゴミの重さと袋に溜まっていく早さに驚き、数十分で片腕では支えきれないほどの量になりました。徐々に気温が高まると、ジャケットを脱ぎ、汗をかきながら作業していきました。皆さんが時間ギリギリまでゴミを集める姿を見て、少しでもきれいな田瀬湖にしたいという地域の方々の思いが伝わってきました。

ゴミ拾いの後には恒例の川柳大会が行われ、帰り道の途中で考えた渾身の句を提出しました。叶うなら、ワインがいただける部門で入選したいと心躍らせていました。表彰式・閉会式前の空き時間には、海洋センターの職員から日常でも使える縄の結びかたを教えてくださいました。私は皆さんの前で結び方を実践する係の一人になりましたが、見様見真似ではうまくできず、結局マンツーマン指導で教えていただくことになりました。少し恥ずかしかったことを思い出します。そして、川柳大会の表彰では、今か今かと自分の名前が呼ばれるのを待ちましたが、呼ばれることはなく表彰が終わりました。残念ながら、今年は支署職員からの入選はなく、皆さんの句のレベルの高さに驚きました。不法投棄や周辺の美しい景観とのギャップを嘆く句が多かったことが印象に残っています。

業務グループ 齊藤(悠)